

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 齊藤 貴士

作成日 2024年2月26日

【責任】

薬学部薬学科に所属し基礎薬学分野、特に物理系薬学分野についての講義および実習を担当している。主たる担当科目は、機器分析系や反応速度論など数学を用いた物理系の科目である。また、薬学英语を担当しており、研究を行う上で必要な論文の読解についての講義を行っている。これに加えて、4年生から6年生までに行われる卒業研究を担当し、学生と共に研究活動を進めていく。

【理念】

薬学部は他の多くの学部とは異なり、6年間という長い期間で知識を修得することになるが、6年間をもってしても身に着けなければならない知識、技能が非常に多い。担当する基礎薬学系科目はこの6年間の中でも比較的早い段階で知識・技能を修得し、その後の薬学教育の土台となる重要な科目である。この時期は知識・技能だけではなく効率よく、また能動的に学習をする習慣を身につける大切な時期でもある。そして卒業研究はそれまでに身に着けた知識、と学習に取り組む姿勢を実践する場となる。

薬学科の学生は卒業後、薬剤師となったあとも常に医薬品や医療の方針などの情報収集のためのアンテナを張り巡らせ、知識を更新できるよう一人で学び続けなければならない。すなわち、基礎薬学領域の教育では薬学を学ぶ上での基礎を身につけることに加え、薬剤師として社会に出たあとも自ら一人で新たな知識を取り入れ、知識・技能を更新し続けることのできる人材の育成が重要である。

【方針・方法】

薬学部で修得する知識・技能は非常に多い。よって、「効率よく時間内で最大の効果が得られる」よう講義や実習、研究を実施している。しかし、講義や実習の時間内のみで、全てを身につけることは不可能である。そのため教わるだけではなく、「自分自身で勉強できる力」を身につけられるようにする。このためには「学習のためのモチベーションを維持」すること、また「モチベーションを生涯維持できる」人材の育成を目指し、次の方法を実施している。

「時間の効率化」

- 各講義の開始時に、その時間内で行う講義の目標を伝えている。
- 実習では講義で身につけた知識を用いる実験と課題を行っており、知識と実技の融合を試みている。

「自分自身で勉強できる力」

- 講義内では必ず練習問題を解く時間を設け、知識の定着を図っている。
- 全講義終了後に講義の動画、講義内で解いた練習問題と回答を公開し、もう一度学習し直せる環境を提供している。

「モチベーション維持と継続」

- 最初の講義で、なぜこの講義が薬学部で必要になるのか、医療の現場での具体的な例を示しながら十分に時間をとって説明している。
- 講義内で使用する資料は、それだけではわからないものとせず配布時にはむしろ何が書かれているのかわからないような状態のものを配布し、講義内で学生と共に資料を完成していく手法を用いている。
- 卒業研究で実施している研究が、これまでのどの学年のどの科目の知識と結び付けられ、そして発展していこうとしているのかを「確認しながら進めている」。

【成果・評価】

- 講義アンケートでは「円滑な授業進行に向けた教員の準備は十分か。」「毎回授業の目標が説明され、その達成に向けた授業が行われていた。」「教員は学生の反応を確認していた。指導やフィードバックが十分に行われていた。」「この授業では、知識・技能を身に付ける

工夫がなされていた。」の項目に浮いて8割以上からポジティブな評価を得ている。

- ・ 記入式の講義資料は学生からの評価が高い。
- ・ 掲載している講義動画について、一定数のアクセスがある。

【目標】

- ・ カリキュラム改定後の2024年度より担当する講義では、学生参加を促せる形の講義を実施する(2024年度)。
- ・ 担当する領域について、薬剤師国家試験での正答率を向上させる。
- ・ 学生と実施する卒業研究の成果を国内外に発信する。